

第37期営業の中間ご報告

[平成15年4月1日～平成15年9月30日]

FUTURISTIC
PULSE

Systemex



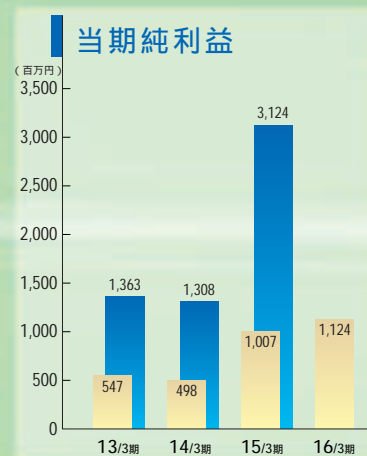
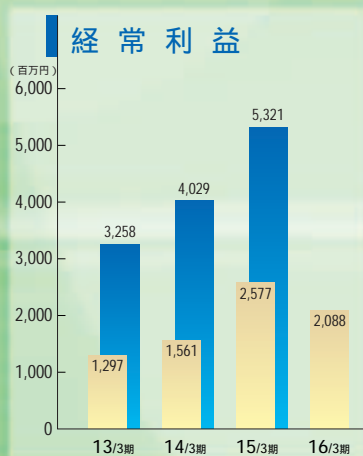
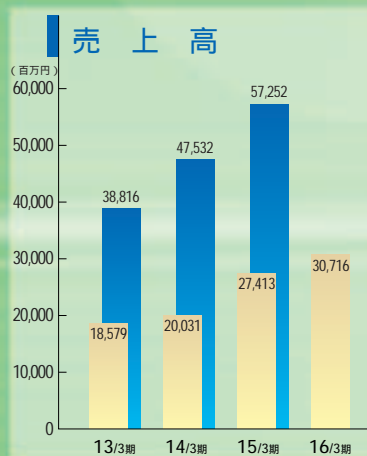
シスメックス株式会社

証券コード 6869

Systemex

業績の推移 | 連結

中間期  通期 



第37期上半期の業績と事業活動について ご報告いたします。

第37期上半期業績のご報告

第37期上半期の業績についてお聞かせください。

当期上半期は、欧州・中国市場を中心に海外での売上が好調に推移し、連結売上高は30,716百万円で前年同期比12.0%の増収となりました。

地域別に見ますと国内では、機器、試薬、IT、サービス&サポートを合わせたトータルソリューションの提案を継続した結果、ITの売上が増加し、新規事業も好調で、売上高は14,915百万円で前年同期比4.5%増となっています。

米州市場においては、血液分析装置、尿検査装置および試薬が伸長しましたが、血液凝固測定装置の売上が減少し、円高の影響もあり、売上高は3,157百万円で前年同期比3.3%の減収となりました。

欧州市場では、ITを含めた総合型提案の効果があり、血液分析装置、血液凝固測定装置が好調に推移し、機

器の設置台数の増加に伴い、試薬も順調に推移しました。売上高は9,406百万円で前年同期比28.7%の増収となっています。

中国市場では、SARSの影響で血液分析装置の需要が急増し、売上高は1,732百万円で前年同期比37.2%の増収となりました。

中国を除くアジア・パシフィック市場でも、血液分析装置、血液

凝固測定装置が順調に推移し、試薬の売上も増加したため、売上高は1,503百万円となり前年同期比15.2%の増収となりました。

利益面につきましては、国内市場での価格競争や米国での直接販売・サービス体制への移行に伴う費用や9月中旬以降の急激な円高の影響により、経常利益は2,088百万円で前年同期比19.0%減となりました。

一方中間純利益は、研究開発投資減税の影響もあり、法人税等の負担額が減少し、1,124百万円で前年同期比11.6%増となりました。

成長著しい中国市場において、 さらなる事業の拡大を図る

中国での売上が順調のようですが、今後の事業展開についてお聞かせください。

この上半期ではSARSの影響により、血液分析装置の売上が拡大しました。これは、中国政府の方針として医療・公衆衛生分野における基盤整備を進展させたことによる動きであり、今後も医療分野への予算拡大が進められると考えられます。従来より中国市場は可能性を秘めた巨大市場であるとされていましたが、SARSの流行をきっかけとして内陸部や農村部等への市場拡大のスピードが加速され、当社にとっては大きなビジネスチャンスが到来したと期待しています。

具体的にはどのような事業戦略をお考えですか。

現在当社は、中国に5拠点を設置し、すでに中国市場



で血球計数、血液凝固分野でのトップシェアを獲得し、尿
分野においても「UFシリーズ」の売上が順調に推移して
います。また、本年3月には新たに生化学試薬の販売を
開始しました。当社は中国市場における総合サプライヤ
ーを目指しており、既存分野でのコスト競争力の強化と新
規分野への参入を目的とし、試薬第2工場を設立し、
2004年9月の操業を予定しています。ここでは主に、免疫
や凝固試薬などの体外診断用医薬品の製造を行い、
高品質・低価格な試薬製品の供給を目指します。

その他、中国市場での学術・啓蒙活動も継続的に実
施しており、その結果として、当社血球計数装置が基準
器として各省の検診中心に設置され、またISOの検討委
員会に当社とロシュ社の2社が選定されるなど、具体的
な成果も出てきています。

ライフサイエンスにフォーカスした 研究開発を積極的に推進

ライフサイエンスでの現在の取り組みについてお聞か
せください。

当社は患者さんのクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、
現在、がんの確定診断および無・微侵襲診断技術の開発に注
力しています。がんの確定診断においては、「リンパ節への
がん転移を手術中に使用できる短時間かつ高精度な診断
技術」、「子宮頸がんの早期発見のための迅速かつ確実な
診断技術」、「患者さんに効果的な抗がん剤を投与前に選
定するための診断技術」の研究・開発を進めています。ま
た、無・微侵襲診断においては、東芝と共同で血液を採
取することなく組織液から糖尿病のコントロールに必要な
グルコース量を測定する技術の開発を進めています。いず
れのテーマにつきましても、2005年

から2006年の市場導入を目指した診断装置・試薬の
開発に取り組んでいます。

がんのリンパ節転移迅速診断装置の製品開発に成
功されたとお聞きしましたが...

本製品につきましては、製品開発に成功し、来年1
月に予定している研究用装置・試薬の発売を目指し、
学会発表・展示等

のプロモーション活動を進めています。この製品は当
社のライフサイエンスへの取り組みに関する商品化の第
1号であり、従来の血液や尿の検査市場から当社にと
って新たな市場である病理検査市場へのアプローチが
必要になります。ライフサイエンスへの取り組みによ
り生み出される製品は、今後の成長への重要な役割を
担っており、現在関連部署からなるプロジェクトチ
ームにより、詳細な市場導入計画を進めています。

当社は今後もグローバルな市場での事業拡大を推
進すると共に、ライフサイエンスに関する研究開発に
注力し、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢
献できる新たな技術の確立に取り組めます。そして、
株主や投資家の皆さまのご期待にお応えできるよう、
さらなる努力を重ねてまいります。今後ともより一
層のご支援の程よろしくお願いたします。

代表取締役社長

家次 恒



世界初!! がんのリンパ節転移の有無を 30分で検出可能な装置と試薬の開発に成功。

シスメックス独自の直接遺伝子増幅法(OSNA)による
遺伝子増幅検出装置「GD-100」および試薬が完成。

昨年5月、がんのリンパ節転移の有無を自動検出できる独自の遺伝子検査技術を開発した当社は、今回、実用化に向けて検出装置と試薬の製品開発に成功しました。8月に行われた「バイオビジネス国際フォーラム」に出展し、好評を得ました。2004年1月から研究用として販売を開始し、その後、治験・許認可手続きを経て、2005年～2006年には臨床用として販売する予定です。

現在、手術中におけるリンパ節へのがん転移の診断方法は、顕微鏡でリンパ節の切片を調べており、部分的な検査となっています。今回、当社が開発した直接遺伝子増幅法(OSNA)による、遺伝子増幅検出装置「GD-100」は、シスメックス独自の可溶化試薬を用いることにより、30分以内で検出できるため、手術中の迅速な検査が可能となります。また、リンパ節全体の検査を自動で行い、検査精度の向上が期待できます。まず乳がんを対象とし、その後胃がん、食道がんなどに適用範囲を拡大していきます。手術方法や切除範囲の決定を迅速にし、患者さんの苦痛や負担の軽減などクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献できます。



直接遺伝子増幅法(OSNA)とは...

検体処理から、遺伝子の増幅・検出までを一体化し、簡便かつ迅速な測定を実現した、シスメックス独自の遺伝子検査技術です。新規に開発した可溶化試薬により、対象とする遺伝子以外の増幅阻害作用を抑制することで、遺伝子の抽出作業が不要になり、迅速な測定を実現します。

シスメックス独自の強みを活かし、 米国市場での直接販売・ サービス体制をスタート

米国は検体検査分野において、世界市場の約40%(約80億ドル)を占める世界最大のマーケットです。当社は、血球計数分野の世界No.1を達成するためには必要不可欠である米国市場でのシェア拡大を目指し、本年7月4日直接販売・サービスを開始しました。



SYSTEMEX AMERICA, INC.(シカゴ)



米国市場での事業拡大を推進し、
真のグローバル企業に向けた
事業基盤の強化を図ります。

■ 米国の市場ニーズの変化により、シスメックスの強みを発揮するチャンスが到来!!

当社では、ロシュ社とのグローバルアライアンス契約にもとづき、1999年より米国ロシュ社と血球計数分野における販売代理店契約を締結し、ロシュ社の広範囲な販売・サービス網を活用して、米国における血球計数分野で事業を展開してきました。

現在米国では、検査技師の不足が慢性化しており、検査の効率化を進めるための検体自動搬送等のシステム化ニーズが拡大しています。また、医療の質の向上を目指した医療記録の電子化など、IT化ニーズも拡大しています。これらはいずれも当社の強みを活かせる領域です。さらに当社の総合力（資金力、技術力、販売・サービス力など）も格段に高まっており、アライアンス企業からのビジネスパートナーとしての評価も向上しています。

■ 世界最大の米国市場で事業を拡大し、血球計数分野での世界トップ企業を目指す。

今回の米国事業体制の再構築は、同市場における医療環境変化に迅速に対応し、世界最大の米国市場において事業拡大を図るとともに、血球計数分野でのグローバルNo.1の達成を目的としています。当社はこれまでに検査室の効率化を実現するシステム商品の圧倒的なシェアを獲得、検査情報システムの導入、ネットワーク対応機能を搭載

した自動血液分析装置の拡販などにより、米国市場でのプレゼンスは着実に高まってきています。

これらの強みに加え、自社による販売・サービス体制を構築することで、さらに強力な事業基盤を確立し目標達成を目指します。

■ 米国子会社を統合し、機器・試薬・サービス・ITを融合

直接販売・サービス体制の構築にあたっては、機器・試薬・サービス・ITを融合したトータルソリューションを提供するために、米国販売子会社である「SYSMEX CORPORATION OF AMERICA」とITの開発・販売子会社である「SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA」を統合しました。同時にオフィスも移転し、人員も約250名体制（2002年12月末時点では75名）に増強しました。また、販売・サービス人員の大部分をロシュ社から採用したことにより、スムーズな業務移行を実現しています。

ここ数年米国市場では、ロシュ社との業務提携により着実に血球計数分野の売上を伸ばしてきました。本年7月の当社への業務移管前後も、売上は順調に推移しています。加えて、北米最大の血球計数検査システムを受注するなど、今後のさらなる伸長が期待されています。

尿検査全体の効率化に向けて、バイエル社との尿製品に関する販売代理店契約を締結。

ヘルスケアと診断薬のリーディングカンパニーであるバイエルヘルスケアLLC診断薬事業部(米国)と、当社製品である尿中有形成分分析装置「UF-100」の米国における販売・サービスに関する代理店契約を2003年3月26日に締結しました。これにあわせて当社は、バイエルの全自動尿定性分析装置「クリニテック アトラス」と「UF-100」を接続する搬送システムを開発します。尿検査には尿試験紙を用いた定性検査とよばれる一次的な検査と、顕微鏡や自動検査装置を用いた尿沈渣とよばれる二次的な検査があり、バイエルは米国において尿定性検査市場のリーダーとしての地位を確立しています。一方、当社は世界で初めて尿沈渣の全自動測定装置と試薬を開発し、世界各国への販売を展開してきました。今回の契約により、世界最大の検体検査市場である米国において、尿検査における一次検査と二次検査のパッケージ提案が可能となります。また、搬送システムの開発により、米国で初めて尿検査全体が自動化され、さらなる効率化が期待されます。

ミレニアムプロジェクトにおいて、世界で初めて血球細胞の高速・高精度解析が可能な装置の開発に成功。

当社は、2000年より政府が進めるミレニアムプロジェクトの一つである「タンパク質機能解析」プロジェクトに参加

してきました。今回、その成果として、社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム、東京大学医科学研究所、独立行政法人産業技術総合研究所と共同で、赤芽球や白血球、リンパ球などの血球細胞の形態変化を従来に比べ、高速・高精度に解析・測定する、フロー方式細胞画像解析装置「FMIA-1000」を開発しました。これにより、膨大な種類の未知のタンパク質から有用なものをいち早く発見し、その機能を解明することが可能となります。未知のタンパク質の機能解明は、将来、病気の原因の究明や、治療法の研究に役立つと見込まれており、特許国家を目指す日本には非常に重要です。本装置には、当社のコアテクノロジーである微細な血球や粒子の形態や数を測定する、血球分析・粒子計測技術が活かされており、血球細胞の形態変化を示す指標を短時間に正確に判別することができます。

米国ウルトラサウンド社と超音波膀胱画像診断装置に関する販売契約を締結。

当社は2003年6月19日、超音波膀胱画像診断装置の唯一の製造販売会社である、ダイアグノスティック ウルトラサウンド社(米国)と日本における販売契約を締結しました。



ブラダースキャン

この装置は、超音波により膀胱内の尿量を簡単に無侵襲で測定でき、前立腺肥大症などの残尿測定をはじめ術後の排尿管理に活用されます。また、老人保健施設や在宅

看護などでの排尿管理にも利用が期待できる商品です。さらに、導尿カテーテル法に伴う痛みや尿路感染などを低減させることも期待でき、患者さんのクオリティ・オブ・ライフの向上にもつながります。

当社は、医療の質の向上に役立つとして注目されているPOC検査(より患者さんに近いところで行う検査)に注力しており、持ち運びが容易で簡単に測定でき、検査に伴う患者さんの痛みが少ないこの装置で、介護市場などへの販売拡大を図っていきます。

中国市場でのさらなるビジネス拡大を目指し、試薬生産の第2工場「シスメックス無錫」を設立。

中国を高成長が期待できる市場と位置付けている当社は、1995年に試薬工場を設立し、血球計数と凝固分野で中国におけるトップシェアを占めています。また、2003年3月より、生化学分野にも参入し、市場の拡大を図っています。今回、第2の試薬生産拠点として、江蘇省無錫市に「希森美康生物科技(無錫)有限公司(シスメックス無錫)」の設立を決定しました。シスメックス無錫では、新たに免疫血清検査および凝固検査の試薬など、高度なバイオテクノロジーを必要とする製品の製造を行います。また、コスト競争力のさらなる強化に向け、将来的に原材料の現地調達を進めるため、製造機能だけでなく、開発機能も兼ね備えた体制を構築していき、2004年9月の操業を予定しています。

「アストリムSU」がグッドデザイン賞を受賞。

財団法人 日本産業デザイン振興会が主催する、2003年度グッドデザイン賞の新領域デザイン部門において、当社の「末梢血管モニタリング装置 アストリムSU」がグッドデザイン賞を受賞しました。この装置は、近赤外分光画像計測法を用いることにより、測定部に指先を当てるだけで採血することなく、血液中のヘモグロビン量を測定することが可能です。近年、スポーツ分野では、持久力とヘモグロビン量が競技成績などに直接影響することが認識されており、アスリートの体調管理やスポーツ医学、また、栄養学や環境研究の各分野で幅広くご利用いただけます。今回受賞しました新領域デザイン部門のグッドデザイン賞は、「先端技術と社会を結ぶデザイン」が評価ポイントの一つで、当社独自の先端技術をより身近にするためのデザインが健康増進に活かされると期待され、受賞につながったものと考えています。



アストリムSU

医療産業都市構想が進む、神戸ポートアイランドに新たな研究拠点の新設を予定。

今回当社は、神戸市が医療産業都市構想として推進する神戸ポートアイランド2期に基礎研究室の設立を決定

しました。現在建設中である起業化支援施設の2004年6月の完成と同時に入居し、同室を開設する予定です。この新たな研究拠点では、細胞増殖のメカニズムなどを探る基礎分野の研究を中心に、がん治療のための診断技術開発などに取り組みます。

NEW PRODUCTS 新製品情報

日本バイオ・ラッド社とのエイズ検査試薬の委託製造・販売契約を締結し、感染症主要5項目の同時測定が実現。

今回当社は、米国バイオ・ラッド社の日本法人である日本バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社とエイズ検査試薬「ランリームHIV-1/2」の日本およびアジアにおける委託製造・販売契約を締結し、2003年8月1日より発売を開始しました。WHOによる2001年末の統計では、全世界で約4,000万人以上のエイズウイルス感染者が報告されています。HIVには、世界各地で発生しているHIV-1型と、この変種であるアフリカ西海岸を中心に発生しているHIV-2型に分けられ、「ランリームHIV-1/2」は、両方の感染症検査に対応できます。また、この契約により、B型肝炎、C型肝炎、梅毒、成人T細胞白血病の検査試薬にエイズが加わり、これら試薬と当社が製造・販売している「免疫凝集測定装置 PAMIA-40i」と組み合わせることにより、主要感染症5項目の同時測定が可能になりました。



ランリーム HIV-1/2

A型・B型インフルエンザウイルスの抗原検出試薬「ポクテム インフルエンザA/B」を三共と共同で販売。

当社は子会社である国際試薬株式会社が開発したA型・B型インフルエンザウイルス抗原検出試薬「ポクテム インフルエンザA/B」の販売を2003年10月1日より、三共株式会社と共同で開始しました。この試薬は簡単な使用方法になっており、1つの試験紙でインフルエンザのA型・B型を同時に判別できます。現在、インフルエンザウイルス検出試薬市場は急成長しており、ウイルスの検出は当社が積極的に取り組むPOC検査(より患者さんに近いところで行う検査)の目的である早期診断・早期治療には必要不可欠となっています。当社ではこの商品をPOC検査市場に向けた重要商品と位置づけ、この分野で強力な販売ネットワークを持つ三共株式会社と販売提携を行い共同で販売します。



ポクテム インフルエンザA/B

連結子会社および関連会社



会社名	所在地	主な事業
国際試薬株式会社	日本	検体検査試薬の開発及び製造
メディカ株式会社	日本	検体検査機器及び関連資材の製造、販売
トーアメディカル株式会社	日本	検体検査機器及び事務機器等のリース
シスメックス物流株式会社	日本	検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送
株式会社アール・エー・システムズ	日本	検体検査機器の開発及び製造
① SYSMEX AMERICA, INC.	米国	検体検査機器及び検体検査試薬の販売、臨床検査情報システムの開発及び販売
② SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.	米国	検体検査試薬の製造及び販売
③ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.	ブラジル	検体検査試薬の製造及び販売
④ SYSMEX EUROPE GMBH	ドイツ	検体検査機器の販売及び代理店サポート / 検体検査試薬の製造及び販売
⑤ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH	ドイツ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑥ WELLTEC GMBH	ドイツ	一般個人向け食品健康情報の検査、提供
⑦ SYSMEX UK LIMITED	英国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑧ SYSMEX BELGIUM S.A.	ベルギー	SYSMEX MOLIS S.A.の持株会社
⑨ SYSMEX MOLIS S.A.	ベルギー	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑩ SYSMEX FRANCE S.A.R.L.	フランス	臨床検査情報システム用ソフトウェアの販売 / 検体検査機器、検体検査試薬の代理店サポート
⑪ SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.	スロバキア	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発・サポート
⑫ 濟南希森美康医用電子有限公司	中国	検体検査試薬の製造及び販売
⑬ 希森美康香港有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑭ 希森美康医用電子(上海)有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑮ 希森美康電腦技術(上海)有限公司	中国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑯ 希森美康生物科技(無錫)有限公司	中国	検体検査試薬の開発、製造及び販売
⑰ SYSMEX SAN TUNG CO., LTD.	台湾	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑱ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.	シンガポール	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
⑲ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD	マレーシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑳ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.	インド	検体検査機器、検体検査試薬の製造及び販売
㉑ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉒ MED-ONE CO., LTD.*	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉓ SYSMEX DELPHIC LIMITED	ニュージーランド	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発、販売
㉔ WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED	オーストラリア	オーストラリア、ニュージーランドの企業向け法定福利事務支援をWebサイトにより提供
㉕ PT. SYSMEX INDONESIA	インドネシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売

*持分法適用会社

平成15年9月30日現在

損益計算書

科目	(単位:百万円)			
	当中間期 平成15年4月1日から平成15年9月30日まで		前中間期 平成14年4月1日から平成14年9月30日まで	
	連結	単独	連結	単独
売上高	30,716	22,737	27,413	20,877
売上原価	12,958	10,666	10,703	9,452
売上総利益	17,757	12,071	16,710	11,424
販売費及び一般管理費	15,134	10,654	13,871	9,804
営業利益	2,623	1,416	2,838	1,620
営業外収益	193	704	211	400
営業外費用	728	698	473	377
経常利益	2,088	1,421	2,577	1,643
特別利益	21	4	49	27
特別損失	88	75	492	253
税金等調整前中間純利益	2,021	1,350	2,134	1,417
法人税・住民税及び事業税	1,108	454	1,337	854
法人税等調整額	198	59	211	200
少数株主損益	14		1	
中間純利益	1,124	956	1,007	763
前期繰越利益		957		886
中間末処分利益		1,913		1,650

総資産 (連結・単独)

総資産は前期末と比べて単独では約15億円増加して664億83百万円となり、連結では約36億円増加して初めて700億円台となりました。主な要因は、営業活動によるキャッシュ・フローの増加に伴い現預金が増加したことによります。なお、連結株主資本比率は前期末と比べて1.6ポイント低下して63.6%となりました。

売上(連結)

国内は厳しい環境にありましたが、POC(ポイント・オブ・ケア)分野やIT分野及び新規事業分野において売上が増加し4.5%増となりました。海外は欧州・中国市場が好調で20.2%増と大幅な増収となった結果、連結売上高は307億16百万円(前年同期比12.0%増)となりました。
国内:149億15百万円(前年同期比4.5%増)
海外:158億円(前年同期比20.2%増)

中間純利益 (連結)

わが国における研究開発投資減税等の影響もあり法人税等の負担額が減少し、中間純利益は11億24百万円(前年同期比11.6%増)となりました。

経常利益(連結)

国内市場での価格競争や米国拠点の直接販売体制移行による一時的な費用の発生等と9月中旬以降の急激な円高進行による為替評価損の発生により、連結経常利益は20億88百万円(前年同期比19.0%減)となりました。

貸借対照表(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成15年9月30日現在	前期 平成15年3月31日現在
資産の部		
流動資産	46,476	42,865
固定資産	23,654	23,584
資産合計	70,131	66,449
負債の部		
流動負債	22,009	18,803
固定負債	3,463	4,267
負債合計	25,472	23,071
少数株主持分	54	53
資本の部		
資本金	5,509	5,509
資本剰余金	8,737	8,736
利益剰余金	29,486	28,784
その他有価証券評価差額金	271	91
為替換算調整勘定	667	268
自己株式	69	64
資本合計	44,604	43,325
負債・少数株主持分・資本合計	70,131	66,449

貸借対照表(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成15年9月30日現在	前期 平成15年3月31日現在
資産の部		
流動資産	36,633	34,611
固定資産	29,849	30,315
資産合計	66,483	64,927
負債の部		
流動負債	18,327	16,598
固定負債	1,967	2,835
負債合計	20,294	19,433
資本の部		
資本金	5,509	5,509
資本剰余金	9,668	9,667
利益剰余金	30,818	30,266
株式等評価差額金	261	115
自己株式	69	64
資本合計	46,188	45,494
負債及び資本合計	66,483	64,927

キャッシュ・フロー計算書(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで	前中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,644	4,077
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,333	785
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,304	1,084
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	189
現金及び現金同等物の増減額	4,034	2,018
現金及び現金同等物の期首残高	10,253	9,181
現金及び現金同等物の中間期末残高	14,287	11,199

キャッシュ・フロー(連結)

営業活動によるキャッシュ・フローは前年同期と比べて、約25億円増加し66億44百万円となりました。これは主に、法人税等の還付による収入約11億円に加えて、法人税等の支払額が大幅に減少(前年同期比約11億円減)したこと等によるものです。

株式の状況

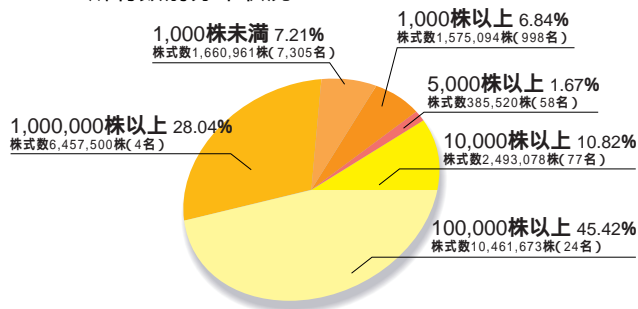
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

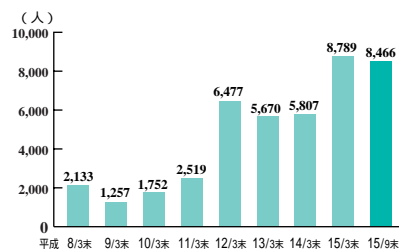
発行済株式総数

23,033,826株

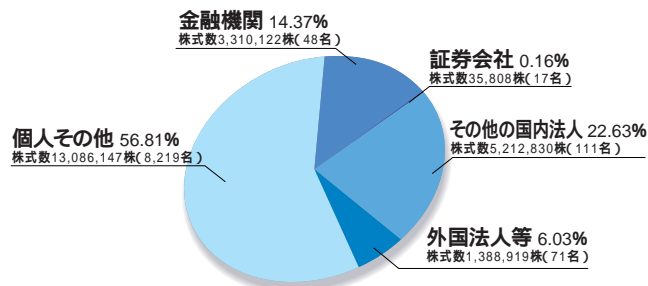
所有数別分布状況



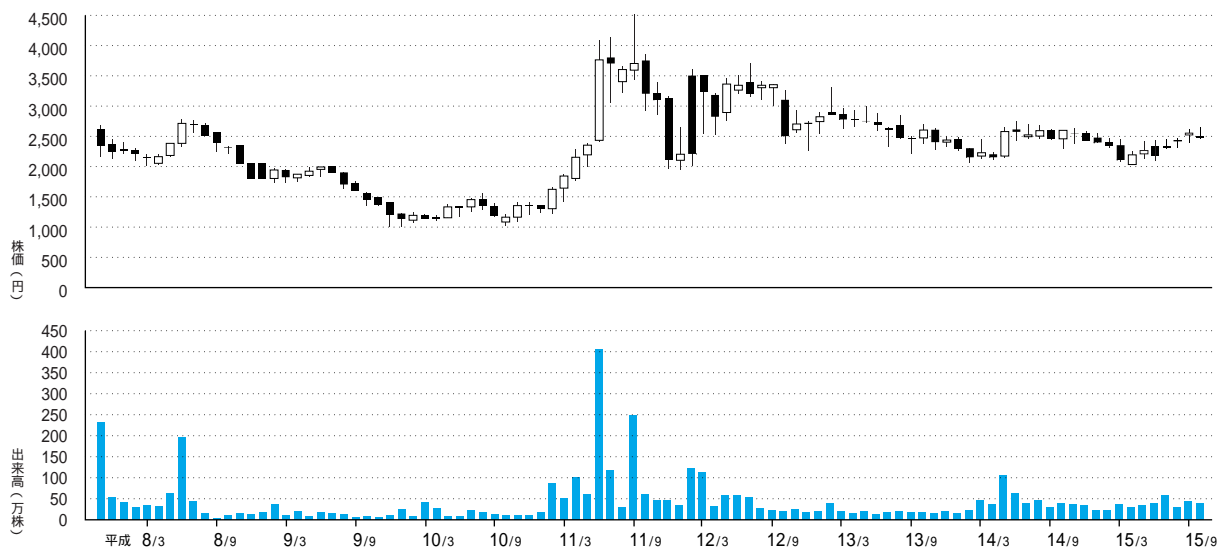
株主数の推移 (人)



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



株主メモ

決算期日 3月31日
 定時株主総会 6月
 基準日
 定時株主総会 3月31日
 利益配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日
 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して
 設定します。
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
 大阪証券取引所市場第1部
 証券コード 6869
 1単元の株式の数 100株

株式事務
 名義書換代理人 〒100-8212東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒100-8212東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先、電話照会先) 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

お知らせ

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490 で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができますので、名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
- 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは名義書換代理人にお問い合わせください。

会社概要

商号 シスメックス株式会社
 SYSMEX CORPORATION
 ('98年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更)
設立年月日 昭和43年2月20日
資本金 55億971万円
従業員数 1,129名
 上記の従業員数には関係会社への出向者207名および嘱託、
 パートタイマー234名は含んでおりません。
主な事業の内容 臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならび
 に関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
主な事業所
本社 〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524
テクノセンター
 仙台支店 営業所
 北関東支店 札幌、盛岡、長野、新潟、
 東京支店 千葉、横浜、静岡、金沢、
 名古屋支店 京都、神戸、高松、岡山、
 大阪支店 鹿児島
 広島支店
 福岡支店

主な関係会社

国際試薬株式会社
 メディカ株式会社
 トーアメディカル株式会社
 シスメックス物流株式会社
 株式会社アル・エー・システムズ
 SYSMEX AMERICA, INC.(アメリカ)
 SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.(アメリカ)
 SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル)
 SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ)
 SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)
 WELLTEC GMBH(ドイツ)
 SYSMEX UK LIMITED(イギリス)
 SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)
 SYSMEX MOLIS S.A.(ベルギー)
 SYSMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス)
 SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.(スロバキア)
 済南希森美康医用電子有限公司(中国)
 希森美康香港有限公司(中国)
 希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)
 希森美康電脳技術(上海)有限公司(中国)
 希森美康生物科技(無錫)有限公司(中国)
 SYSMEX SAN TUNG CO., LTD.(台湾)
 SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール)
 SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD(マレーシア)
 SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド)
 SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.(タイ)
 MED-ONE CO., LTD.(タイ)
 SYSMEX DELPHIC LIMITED(ニュージーランド)
 WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED(オーストラリア)
 PT. SYSMEX INDONESIA(インドネシア)

役員のご紹介

取締役社長 (代表取締役) ... 次 恒	取締役 ... 日置 栄一	取締役 ... 山本 博	常勤監査役 ... 明田 光弘
専務取締役 ... 雪本 賢一	取締役 ... 中谷 正	取締役 ... 中島 幸男	常勤監査役 ... 岩田 豊太郎
常務取締役 ... 和歌 光雄	取締役 ... 林 正好	取締役 ... 田村 幸嗣	監査役 ... 石田 義晃
常務取締役 ... 岩崎 為雄	取締役 ... 大東 重則		

COMPANY PROFILE

シスメックスグループ紹介



英国における、血球計数・血液凝固分野のリーディングカンパニーとして、さらなる事業領域の拡大を目指す。



SYSMEX UK LIMITED

イギリス ミルトン・キーンズ

英国における直接販売とサービス&サポートの提供を目的として、現地法人「SYSMEX UK LIMITED」が1991年に設立されました。「SYSMEX UK」はロンドン近郊のベッドタウンで、年々人口が増加しているミルトン・キーンズ(人口約22万人)に位置し、ロンドン中心部から電車で1時間弱という便利な場所にあります。ロンドン周辺には小さな町が多数あり、このエリアは昔から区画整理されて十字路(通称:ラウンドアバウト)が多く、町が道路に囲まれていることから、牧場に似ていると言われています。また実際に“コンクリート・カウ”と呼ばれる有名な牛の像が町の象徴となっています。

「SYSMEX UK」は設立当初より順調に業績を伸ばし、現在では同国の血球計数分野、血液凝固分野においてトップシェアを獲得し、リーディングカンパニーの地位を確立しています。現在の従業員数は設立当時の約2.5倍に増加し、年間売上高も1,000万ポンドを超え、今後のビジネスの拡充に

向け、本年12月には、同じミルトン・キーンズにある新オフィスに移転します。

今後は、尿検査分野やシスメックスの強味のひとつであるIT関連にも注力すると共に、患者さんのクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献する、POC検査にも事業領域を拡大していきます。また、アライアンスの活用を含め品揃えの充実を図るなど、さらに強力な事業基盤の確立を推進し、現地における企業価値の向上を目指します。

POC検査: より患者さんに近いところで行う検査



町の象徴“コンクリート・カウ”